

第4回(仮称)千葉県こども計画策定会議 議事録要旨

1. 開催日時 令和7年3月25日(火)
午前10時00分～午前11時00分
2. 開催場所 ホテルプラザ菜の花 3階「菜の花」
3. 出席者 別紙のとおり
4. 関係課 総務部学事課
健康福祉部健康福祉政策課、健康福祉指導課、健康づくり支援課
児童家庭課、障害福祉事業課、医療整備課、子育て支援課
環境生活部くらし安全推進課、県民生活課
スポーツ・文化局生涯スポーツ振興課、文化振興課
県土整備部公園緑地課
病院局経営管理課
教育振興部生涯学習課、学習指導課、児童生徒安全課
特別支援教育課、教職員課、保健体育課
警察本部警務部警務課

5. 議 事

(1) 開 会

(2) あいさつ 加賀谷こども家庭対策監

(3) ①「千葉県こども・若者みらいプラン(案)」について

②その他

※会議設置要綱第5条第1項の規定により、真田会長が進行。

【要 旨】

①「千葉県こども・若者みらいプラン(案)」について

- ・説明者 椿原子育て支援課長(資料1～資料4により説明)
- ・御意見(概要)及び質疑応答(概要)は、以下のとおり。

[子育て支援課]

貞廣副会長からの御意見を代読させていただきます。

御意見といたしまして、目配りの利いた計画策定後は、その実装、これが一番難しいかと存じますが、モニタリング、モニタリングによる成果検証、方針の微調整等が必要になります。

実装に関連して、こども、若者の方々には、ぜひ当事者意識を持って声を発してほしいと考えます。とはいえ、これまでそうした経験知を持たないこども、若者に、いきなり主体的になれ、意見を表明しろ、声を発してくれというのでは目的は達成できません。例えば主体的に声を寄せてもらえる仕掛けの一環として、高等学校の探求の授業を活用して地域や県の課題についての理解を深め、解決策を提案してもらう試みを考えていただくこともあると思います。大人の論理ではなく、これからの社会を担うこども、若者の声が反映できるような仕掛けを教育現場の協力も得ながらお願いしたいと存じます。

御意見いただいたものは以上となります。

[尾関構成員]

3回目の会議の際、こどもへのヒアリングの数が少ないのではないかと少し心配していたのですが、パブリックコメントのときに御配慮いただき、たくさんの意見が寄せられ非常に安心しております。

計画が完成すれば、ここからがスタートになります。令和7年度はもう決まってしまったかもしれませんが、事務局の皆様には、今後の予算獲得を頑張ってください、千葉県だけでは実現できないことも、ここに集まっている皆さんやここには来れないけれども、コメントを述べてくださった方の団体と連携しながら、基本理念の実現に向けて取り組んでいただきたいと思います。

また、ただいまの貞廣副会長からのお話にも、さらに事務局の説明にもありましたが、寄せられた意見を計画に反映してきたプロセスを、こども、若者、また、障害のあるお子さんたちにもできるだけ分かりやすくフィードバックしてほしいと思っております。これにより、こども、若者が自分の権利について学ぶ機会となりますし、意見や気持ちを言っているんだという意見表明の機運の醸成や、大人や社会がこども、若者の意見を聞く意義や重要性の理解が広がると考えております。

また、大変だと思いますが、資料1-2の2ページに記載されております関連計画の改定の際にも、こども、若者の意見を聞いて反映し、フィードバックしていくというプロセスを尊重していただきたくお願い申し上げます。

資料1-2の218ページにこの計画の推進体制と進捗管理があり、今後、こども・若者当事者の委員を募集していくように書かれているのですが、私はその計画の期間中に、この傍聴席がこども・若者当事者で埋まるようになることを希望しております。

[瀧本構成員]

この会議で発言したのか、子ども・子育て会議のほうで発言したのか、定かではありませんが、プランの230ページの中の目標の106番で、「放課後児童クラブの利用を希望するが利用できない児童数」の目標が「減少させます」となっています。現行の子ども・子育て支援プランの同じ項目では「解消を目指します」となっており、これはトーンダウンになるのではないかとということで、再考、検討をお願いした経過があったと記憶をしております。ですが、今日示された最終資料でも「減少させます」のままになっているところについて、どういう御検討をされてこういう結果になったのかお聞かせいただけないかと思えます。

[子育て支援課]

資料3-4「子ども・子育て会議からの御意見と対応案」の8番目の項目にお示ししましたが、現状、なかなか横ばいの状況が続いているところで、今後、県といたしましても、実施主体である市町村と連携し受皿整理を進め、「減少させる」こととさせていただいたということで対応を書かせていただいているところでございます。

[瀧本構成員]

現状を踏まえてということですが、やはり目標ですから「解消を目指す」がいいのではないかと思います。県の総合計画の中でも、放課後児童クラブにおける保育需要に対応するため、施設整備をさらに進めていくことに加えて質の向上を図ることがうたわれています。まず、入れなければ、どんなに質を高められても享受できませんし、知事の選挙公約の中にもそういった話があったように思いますので、ぜひここは「減少させます」ではなくて「解消を目指します」に見直しを求めたいと思います。

[子育て支援課]

基本的には計画の中で「減少させます」と考えている姿勢については、私どもも、待機児童がいる状況については改善していかなければならないものという認識は強く持っており、市町村と共に取組を進めているところでございます。この記載の仕方については、全体の統一などもございますので、直すかどうかについても含め、検討したいと思えます。

[瀧本構成員]

この表現では、おそらく今おっしゃられた姿勢が見えないと思います。トーンダウンしてしまい、なぜ目標が後退しているのかと、県として、そういう姿勢なんだというふうに、逆に後ろ向きに取られかねないと思います。

[真田会長]

事務局と私に一任させていただきたいと思います。

[本間構成員（代理）]

こどもの意見を読ませていただき、こどもたちが地域のこどもたちと仲よくしたり、つながりを持ちたいという意見を本当に持っているんだと驚きました。ゲームの中でしか繋がりがいいようなこどもたちが多い中で、とても素敵な意見が出ていました。

さらに驚いたのが、小学生がこどもの意見の57番目で、大人が男女問わず育休を取りやすい環境づくりを、と述べています。そういった考えを持っていたことがとてもすばらしいと思いました。それだけみなさんよく勉強していらっしゃるということを感じ取りました。また、いじめの関係では、一番最後のこどもの意見でもありますが、今、世界的に中学生、小学生のSNSの話題が出ています。今後、アドボカシーもそうですが、こういうことも考え、いろいろな取組を行っていただきたいと思いました。

[子育て支援課]

今回実施したパブリックコメントでも小学生や中学生からもご意見をいただき、そういった声を真摯に受け止めて今後とも生かしていきたいと思っているところです。

[本間構成員（代理）]

つい最近のオーストラリアの新聞にも載っていたデータだったので、ちょうどいい話題ではないかと思いました。これからのこどもたちは本当にSNSのつながりでいろいろトラブルが起きるのではないかと感じており、心配なのでよろしくお願いします。

[柏女構成員]

この計画の案ですが、県の実情に沿いながら先駆的な取組についても計画に盛り込めたことはよかったですし、新規事業も取り上げられており、特に意見表明支援やこどもの権利擁護の仕組みなど、当事者に直接影響する事柄について書かれておりますので、それについては慎重かつ丁寧な事業の展開が今後必要だろうと思います。

また、今後、計画の進行管理が進められていくことになりますが、なお一層、当事者の思いを大切にしたい取組に期待をしていきたいですし、ヒアリングのみならず、当事者の参画そのものも必要だろうと思います。

私が代表として参加をさせていただいた貧困部分について、結果は大きく2点にまとめられるかと思っています。

1点は、経済的な貧困自体は、全国的に改善はしているということですが、県の独自の定義による貧困では、これは5年前に比べて悪化しているということを私たちは肝に銘じなければいけないと思います。特に体験、持ち物、さらには日常生活習慣です。こうしたところが悪化をしているという点は看過できないものがあるのではないかと考えています。それらに対する施策を進めていくことが1つは必要だろうと思います。

もう1点は、これまで想定されていなかった部分、先ほども御報告がありました。不登校やヤングケアラー等々、貧困がかなり影響しているということが調査の結果などでは示されています。つまり全てのこどもの施策において、支援者が貧困という現象に対する感度を上げていくということがとても大事だと思います。不登校のこどもは、メンタルな問題に着目するだけではなく、貧困のためにそうなっているのではないかと、経済的な状況、条件、こどもたちや御家族が置かれている条件そのものに感度を上げていくということがとても大事な視点になり、これはこども計画全体の中に反映させていかなければならないだろうと思います。

貧困対策部会では、貧困の発見に、より早く取り組むために乳幼児期からのチェックシートを作り、さらには学校も含めて研修を始めていくといったようなことが施策の中に盛り込まれておりますが、こうした全体に対する貧困の感度を上げていくということがとても大事なことではないかと考えています。

時代やこども政策の大きな変わり目にこのような計画を取りまとめられたことは本当によかったと考えております。

[健康福祉指導課]

県としましても、今年度実施した実態調査の結果を庁内及びこどもの関係者に広く周知する他、今お話がありましたチェックシートといったツールなどを広めていくことにより、貧困の感度を上げていく取組を進めてまいりたいと思います。

[真田会長]

恐らく、今国会で高等学校の無償化の問題が通ると思います。このプランは、若者向けで高校生も含まれると思いますが、その備えは県庁全体としてあるのでしょうか。どういうふうに進められるのでしょうか。今、まだ法律も成立してないので細かい検討に入ってはいないと思うのですが、いかがでしょうか。

[学事課]

今、まだ情報収集をしている段階です。詳細が分かりましたら、対応を考えたいと思います。

[芝崎構成員（代理）]

今回の計画策定に当たりまして、改めて乳幼児期のこどもに対する関わりというものの大切さというところをよく感じております。特にアタッチメントですが、養育力が落ちている保護者が多いという中で、やはり保育所を含め、こういうところでのこどもの関わりという重要性、これは保育士がこどもに対して、どうしていくかといった部分で、いつも問題視していかなければいけないと感じています。

今の保育の現場は、抱える仕事が増え続けてきております。それに合わせて、目の前のこどもから保護者の対応、地域のこどもに対する支援、支援が必要なこどもが増えてきますので、この件につきましては、いろいろ研修を設けていただき、知識については、保育士は学ぶ機会は増えてきた部分があるのですが、やはりメンタルの部分です。こどもは、思ったようにできないのが当たり前という部分があり、それを見守っていきながら、できるように向けていくので、保育士というのは、言ってみれば、メンタルの仕事の部分の重要性がすごく大きいのではないかと思います。虐待云々という話も入ってきておりますし、そういうことを含めて、今後、保育士たちに対するメンタルに関しても支えていただけるような、そんな環境をつくっていただければとお願い申し上げたいと思っております。

[子育て支援課]

メンタルの部分につきましては、子育て支援課で保育所を巡回してアドバイスを
行う事業を、今、県として行っているところでございます。ただ、確かに保育士の方々が目の前のこどもと向き合い、さらには保護者の方とも向き合い、地域の子育て支援をするということではいろいろなお仕事、いろいろな業務をされている中で、私どもも保育士の方々、保育を支える方々がそういったところを担えるよう、体制も、それからメンタルの面、研修等の知識のところも含め、しっかりと一緒に進んでいきたいと考えておりますので、今後ともいろいろ御協力いただければと思います。